

「学生によるオレンジリボン運動」

香川短期大学 実施報告書



実施主体 子ども学科第Ⅰ部、子ども学科第Ⅲ部各1年生

実施内容 平成24年11月16日～26日 子ども虐待に関する授業とオレンジリボン配布



①事前に取り組んだ内容

学生によって、オレンジリボン作成のための準備を行った。

(授業参加学生が作成するためのリボンカット、材料の確認等の事前準備)



②実施期間に取り組んだ具体的内容

1. 関連授業の中で、オレンジリボン運動を取り上げる。

・「虐待とそれに関する啓発の重要性」についての講義。

・学生が主体となつてのオレンジリボンの作成。

2. 子ども学科学生へのオレンジリボンの配布

3. 昼休みを使つての他学科学生へのオレンジリボンの配布

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

○今までニュースなどで虐待のことを聞くとひどい母親だなと思っていたが、母親だけの責任でなく、周囲の人も支えてあげないことにも問題があるとわかった。母親が悪くないとは思えないけど、一人で子育てしていたら不安になったりすることもあると思う。その時に相談できる人が身近にいたり、児相の存在を知っていれば気持ちが楽になると思うから、オレンジリボン運動で、一人じゃない、相談してもいいんだと思ってもらえたらいいなと思った。

○自分は虐待なんかしないと思っていても、もし追い詰められたら、してしまうかもしれない。他人事だと思わずこのような活動に積極的に参加してじっくり考えてみるのが大事。

○子ども虐待の中で「乳幼児揺さぶられ症候群」というのがあった。虐待と知らず親がしてしまう場合があると知りとても辛いことだなと思った。子どもへの影響をもっと親が知ることが大切だと思う。

○周囲に相談できる人がいないとき、きちんと支援してくれる環境があるということ、みんなに知ってもらいたいと思った。自分が保育士になったとき、子どもや親の状態をきちんと理解して、異変があれば気づいてあげられるようにしないといけないと思う。

○子どもを虐待する親はなんらかの問題を抱えていることが分かった。誰にも相談できずに抱え込んでそれが虐待につながっていたり、自分が昔虐待をされていたり沢山の理由があることがわかった。

○虐待をする保護者の背景には子育ての悩み、周囲からの孤立、不安定な精神状態などがある。このような問題を解決し、少しずつでも虐待から子どもを守っていくためには相談できる相手に頼り、自分の気持ちを落ち着かせることが大切だと思う。友達や親に相談しにくいときは、気軽に専門家に相談できるような環境を作っていきたいと思う。

○虐待は世の中の人たちは「私には関係ない」と思っている人が多数だと思う。しかし子育ての悩みからくる虐待もあり、特別な人が虐待をしているのではないと思った。

